

WATAKEI DX MAGAZINE

Vol. 02

9割の企業が抱える疑問に答えます！

渡敬グループが現在社内で公開している生成AIについてご紹介します

ロードマップ作成ワークショップの記録

DX推進グループが行っているワークショップのレポートです

特集「あなたの会社はどのレベル？」

生成AI活用度レベルを独自視点で解説！

こんなお悩みありませんか？

「社内の情報共有に時間がかかる…」 「共有資料の保存場所どこだっけ…」

社内情報共有の事例2選をご紹介します

みなさまのDXを
ご支援します

未来を描くロードマップ作成ワークショップの記録

現在DX推進グループで行っている、「ロードマップ作成ワークショップ」の様子をご紹介します。

ロードマップ作成ワークショップとは？

「これからデジタル化を進めていきたいが、進め方がわからない、実践に移せるか不安がある」という企業様のために、現状の課題をお聞きしながら、デジタル化を推進するにあたり必要な、デジタル化ロードマップ、デジタル化ヘシフトするための設計図をワークショップ形式で一緒に作成いたします。

ワークショップは全3回、下記の内容で進めていきます。

第1回 ワークショップの内容説明・デジタル化基礎知識・ネットワークインフラ調査・業務棚卸方法の説明

第2回 業務別デジタル化の検討・デジタルツールの検討

第3回 デジタル化の投資対効果の検証・デジタル化実行スケジュールの策定

Case01

秋田市 食品卸小売業 | 参加者:代表取締役

2024年12月25日、第3回目のワークショップを実施しました。導入するデジタルツールの一覧、概算コストの提示、2年以内に導入するツールについて検討を行いました。



顧客管理や社内情報の共有については是非やりたいとのことで、特にトラックの運転日誌は現在紙で管理しており、「システムに入力するだけで完成するような設計があれば社員も楽だろう」と具体的なビジョンが見えているようでした。

また、後日、導入するツールについて具体的な画面・動作・項目の設定等についてデモンストレーションを行いました。日報や運転日誌の運用に必要な項目の準備を行っていただき、4月から導入できるように実行スケジュールを進めていきます。

活発な話し合いが行われ、デジタル化への積極的な姿勢が見られました。

「将来のためにデジタル化は必要と認識している。社員に対しデジタル化の必要性を説明し、すすめていきたい。」と語っていただきました。

Case02

秋田市 工芸品卸小売業 | 参加者:代表取締役

2025年1月10日、第2回目のワークショップを実施しました。昨年10月開催のデジタル経営勉強会にご参加いただいた際は、会議資料のペーパーレス化や申請書類の電子化に関心をもっていました。

ワークショップ冒頭では、事前に業務内容を棚卸ししていただいた資料をもとに、そこから浮かび上がった全30項目ほどの課題をデジタル技術でどのように解決できるかを話し合いました。

現在の最優先課題は、紙が多くデスクが書類で埋まりがちになっているとのことで、ペーパーレス化を優先的に進めていくことになりました。また、出していた課題の多くは、ノーコードツールやグループウェアの導入、活用で解決できる見込みのものが多く、今回のワークショップではデジタルツールのデモンストレーションを行い、実際の動きなどを確認していただきながら、費用対効果の検証、実行スケジュールの策

定を行う予定です。

ワークショップは、終始和やかな雰囲気で行われ、自由に質問や意見が交わされました。代表は、熱心に耳を傾け、真剣にメモを取りながら次のステップへの意欲を高めていました。



「あなたの会社はどのレベル？」

生成AI活用度を独自視点で解説！

「AIが仕事を奪うのではなく、AIを使いこなす者によって仕事が奪われる」*1

最近、こんなショッキングな言葉を聞きました。皆様は、AIをどのように使っていますでしょうか。もしくは、まださわったことがない方も沢山いらっしゃるのではないのでしょうか。今回の特集では、渡敬グループが実際に社内導入した生成AIの事例を含めながら解説していきたいと思ます。

下記にまとめたご利用のレベル感は、弊社独自の視点で分類したものです。本来のレベル4は、もっと高度な利用が定義されているのですが、自社での実践利用も踏まえ、この地域で想定できるかなり現実的な指標としてまとめてみました。はやくレベル4を目指していかないと、先ほどの言葉が現実となってしまいます。そうなる前に、弊社はこの秋田県に生成AIを広めて行かなければならないと感じています。

*1：文部科学省生成AIの利活用に関する検討会議資料 今井氏

Level 01

個人レベルでの生成AI利用

弊社のお客様の事例でご紹介すると、「○○の会合の挨拶をAIに考えてもらった」、「作った文章を添削してもらった」というようなレベル感になります。こちらの事例が、今のところ圧倒的に多いです。

また、Web検索と同じ感覚で「キャンプ料理 家族が喜ぶ」と入力されて、その結果、あまり**Webの検索と変わらない**といったお声をいただいているのが大部分というレベルになります。

Level 02

業務プロセスでの生成AI利用

プロンプト（質問の仕方）をある程度文章で入力して、様々な情報を一気に回答してもらって利用ができており、情報収集の時間を短縮しているレベルです。

また、「Microsoft365 for Copilotを用いて、Wordの文章をもとにPowerPointを生成し、資料作成のための時間を短縮している」、といった、生成AIを使うことにより仕事の**生産性向上にいくらかでも役立っている**というレベルのお客様です。

Level 03

会社全体のプロセスでの生成AI利用

レベル1,2は、個人での生成AI利用になります。生産性向上に役立つレベル2は、会社全体の有効性は図れますので進んだ利用イメージだと思います。しかし、自社のデータや情報をもとにした生成AI利用とは言えません。もう一歩進んだ利用が必要です。様々な企画のアイデア出しなど全体プロセスに利用されるとともに、社内ルールや規定、QA集などを学習させて、**社内情報をナレッジデータとして利用できる環境**で生成AIを活用されているのがレベル3に相当します。

Level 04

ビジネスモデルへの全面的な生成AI利用

弊社のお客様でも、まだ見たことがないレベルです。会社の情報をナレッジデータとして学習させた上で、お客様への対応をより個別にできる基盤を構築したり、生成AIにより企業経営における指標を示されるなど、**ビジネス変革の基盤になっている状態**が想定されます。

このレベルでは、少なくともデータに基づく経営、まさに**AIによるデータドリブン経営とDXへの取組**が行われているレベルだと思います。

Outside the Level

特定の業務に特化した生成AI利用

生成AIは、画像、動画、音声といった業務全般の分類に入らない使い方が沢山あります。凶面を入れると、仕上がりパースを何種類も作ってくれる生成AIや、リアル動画をアニメ動画に変えてくれたり、IoTを利用して収集データを識別するなど、特殊な使い方が沢山世の中に出っていますが、この使い方は上記レベルには入れていません。

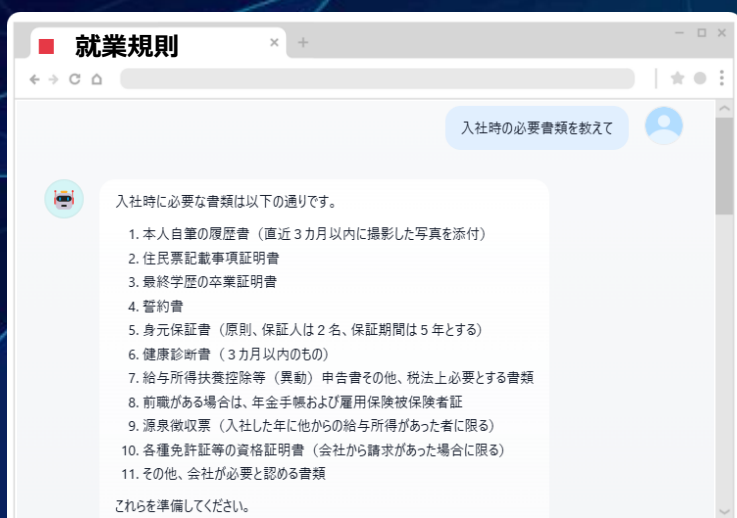
9割の企業が抱える疑問に答える - 渡敬グループ生成AI活用事例のご紹介 -

渡敬グループが現在社内で公開している生成AIについてご紹介します。内容は前項のレベル2後半に相当し、社員によって利用のばらつきが大きく、全社的に活用されているとは言えません。これが渡敬グループの現状ですが、目指すべきはレベル4です。そこに行きつく過程と利用状況をモニタリングし、その効果をお伝えできればと思っています。

多くのお客様が「どのように業務に活用できるのか」「本当に役立つのか」と疑問を持っており、約9割の方がまだ利用に対して懐疑的です。わが社も実際の利用経験はまだ十分ではありませんが、現状の利用イメージをご紹介します、皆様の参考になればと考えています。気になるコストについてですが、紹介している生成AIの総コストは月額数万円です。

以下ご紹介の内容は、生成AIのRAG（検索拡張生成）という仕組みを使い、社内にある情報をナレッジデータとして利用し、LLM（大規模言語モデル）によって対話ができるChatbot機能のツールの利用例になります。

※表示されているものはすべて実環境です



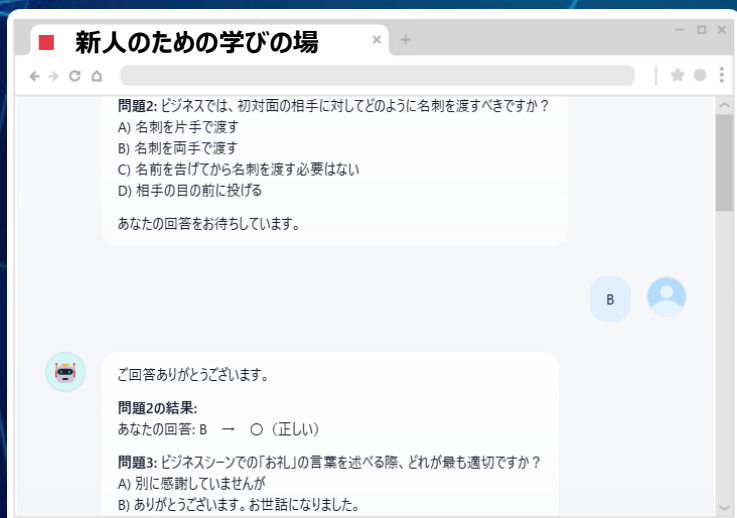
LLM ドキュメント学習

会社の就業規則や規定を学習させており、自分の言葉で単純に質問するとそれに該当する内容を返答してくれる仕組みです。この仕組みは社内の情報を生成AIで利用しようとしたとき、一番最初に用意されるナレッジデータです。



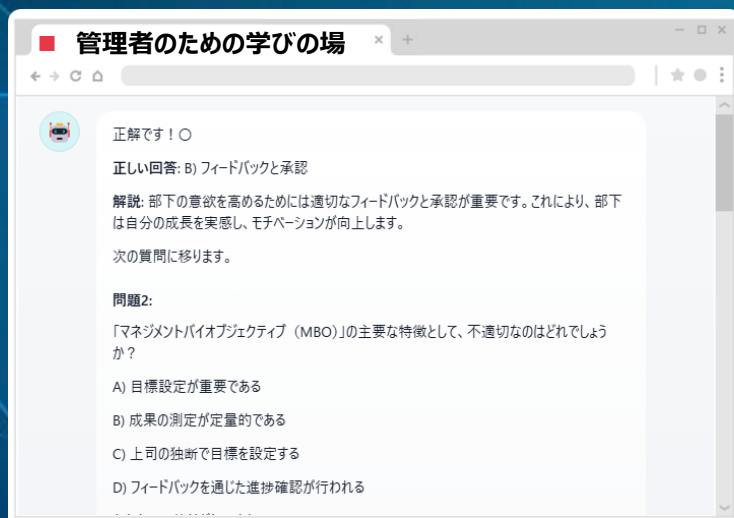
LLM ドキュメント学習

会社の暗黙のルールや必須のルールを学習し、質問に答えるナレッジDBを構築しています。この生成AIは、ちょっとした質問に対しても、このナレッジに問いかけると答えが返ってくるため、新入社員や入社間もない社員にとって特に有効なツールです。



LLM

新入社員の基本を学ぶための生成AIです。一般的な知識を使い、社会人一年生の学びの場を提供します。4択の質問に答え、最後に総評が出る仕組みです。同様に「社内のコンプライアンス教育」の生成AIも用意し、練習できるようにしています。



LLM

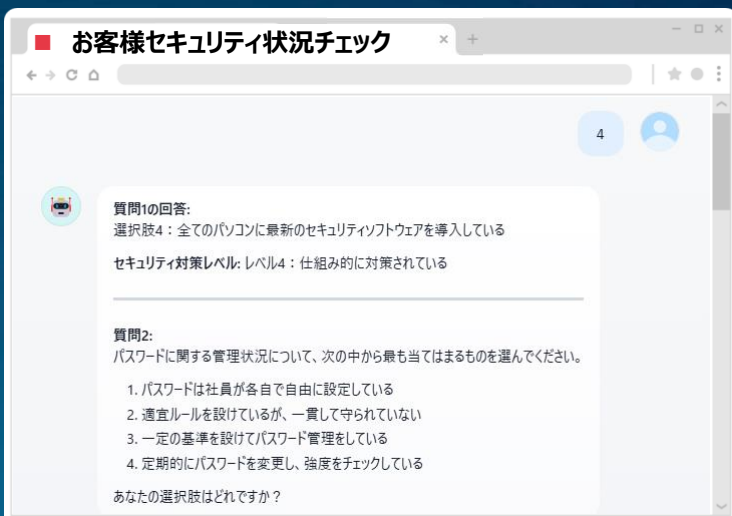
管理者教育用の生成AIです。弊社の規模を想定し、5~6名の部下がいる管理者向けに作成しました。4択の質問に次々と答えていき、最終的には自分の傾向も解説してくれます。何度でも利用でき、管理職のイロハを学べるツールです。

ワタケイAIサービス[wapli-AI]新登場★



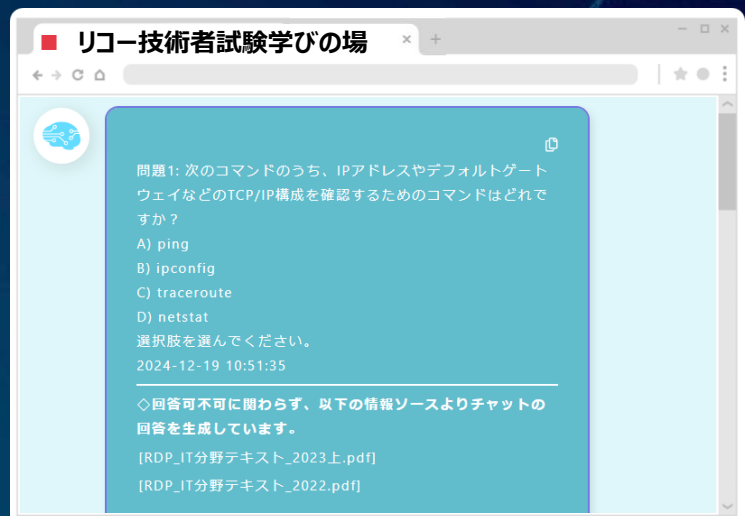
ワタケイAIサービス Wapli-AI とは

wapli-AIは、社内に点在する資料やノウハウなど社内ナレッジを整理・集約します。ホームページ、PDF、Word、PowerPointなどを取り込むだけで生成AIチャットボット・FAQが完成します。さらに、取り込んだ情報を顧客向け・社内向けにいつでも簡単に自然言語で引き出せるChatGPTを使ったチャットボット・FAQを提供するサービスです。



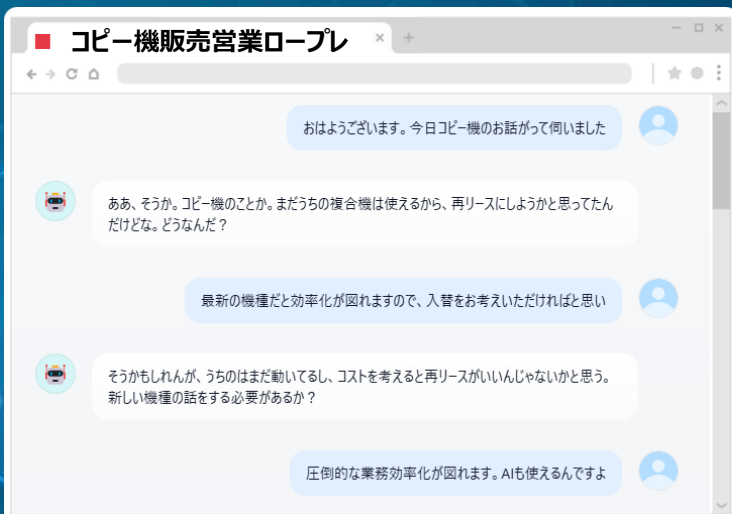
LLM ドキュメント学習

お客様向けの生成AIです。営業が提示し、「IPA 独立行政法人 情報処理推進機構」の情報を基に自社のセキュリティ対策レベルを調査できます。設問に答えることで総評とレベルを示してくれるツールです。ぜひ一度お試しください。



LLM ドキュメント学習

弊社のサポート系社員は、知識向上のためリコーのITスキル認定試験を受けています。この生成AIは、試験テキストを学習し、試験範囲の問題を自動で出題します。一般的な知識だけでなく、専門的な範囲も学習でき非常に便利です。



LLM

この生成AIは、社員25名の会社の社長を想定し、コピー機の販売のロールプレイング訓練が行えます。営業が顧客対応を練習できるツールで、良い提案をしないと注文がもらえないようルールを組み込んでいます。難易度の変更も簡単にできます。

社内Chatbot以外の生成AI利用

- 文書下書き、校正
- 仕事のアイデア出し
- 提案もののネタ収集やデータ収集
- 議事録作成、要約
- 提案資料の素材生成
- 技術アドバイス
- プログラムコード生成
- 専門知識の学習、情報収集
- 契約書などのリーガルチェック

wapli-AI詳細はこちら ▶▶▶
詳しくは「渡敬DX推進グループ」まで
お気軽にお問い合わせください。





- 回覧板がどこまで回っているのかわからない
- いつも同じ人の机の上で止まっている
- 全員に情報が行き渡るまで時間がかかる…

デジタル回覧板の活用で迅速で平等な情報共有を実現！

お知らせや告知など複数の社員に共有の案内を回覧できる機能です。紙の回覧と違い、回覧相手全員に一齐に届くので、途中で滞りません。

作成した回覧板を社員全員や必要な人だけに回覧したり、過去に作成した回覧板を探したり、再度同じものを作成したり、同じような体裁の回覧板を作成する場合に以前のを参照したりするなど、回覧板に関わる業務をスムーズに進行させることができます。

回覧書類を紙で探す必要も、処分する必要もありません。PC、スマホからいつでもどこでも簡単に確認できます。

編集	再利用	マイテンプレートにコピー	メール通知	閉じる
タイトル:	20XX年度 第3Q 営業部定例会			
重要度:	!! 最重要			
カテゴリ:	営業			
作成者:	部署未登録 システム 管理者			
添付ファイル:	☑ 20XX年度 第3Q営業会議.docx [13.3KB]			
内容:	20XX年度 第3Q 営業部定例会 開催にあたって			
開催日時:	20XX年X月X日 10:00スタート ※詳細は添付ファイルをご参照ください ※拠点メンバーは当日朝に移動してください ※各支店長は前日移動（前夜、支店長会議実施）			
閲覧制限:	全社員			
回覧開始日時:	2024年12月17日(火)			
回覧終了日時:	2025年1月17日(金) [期限終了後に削除する]			
閲覧人数:	0 / 1 既読			

回覧先一覧			
[展開] グループ:	グループ名	氏名	回覧先メンバーからのコメント
最新確認日時			
20XX年3月12日(水) 15:47	役員	長井 太洋	意義のある場としてください。
20XX年3月12日(水) 15:47	役員	本動 淳治	成果をモニタリングいたします
未確認	役員	東海 和夫	
未確認	営業部	相川 弘	
20XX年3月12日(水) 15:46	営業部	大野 太郎	資料確認しておきます!
未確認	営業部	相葉 五郎	

回覧した内容は、相手が確認したかどうか分かるようになっていきますので、相手に確実に伝えることができます。

また、回覧板の確認時に、作成者と回覧先との間で確認のためのコメントを入力できます。コメントは回覧先全員で共有されるので、効率的に情報共有できます。

NI Collabo 360 : 月額328円/名(税込:360円)

いつでもどこでも即確認！ デジタル回覧板で業務を加速

社内の回覧資料をデジタル化することで、業務効率が劇的に向上します。

まず、デジタル回覧板を導入することで、誰が回覧文書を確認したのかをリアルタイムで把握できるようになります。これにより、確認漏れ防止につながり、回覧への意識が高まります。

また、PCだけでなく、スマホなどのモバイルデバイスからチェック可能なため、外出や出張が多い社員でもすぐに確認でき、回覧スピードが飛躍的に向上します。

さらに、デジタル回覧板では画像や動画、リンクなどの多様なデジタルデータを添付できるため、質の高い情報を容易に共有できます。これにより、情報の伝達がより豊かで効果的になり、業務の質も向上していきます。

デジタル化による業務改善は、今後ますます重要性を増していくことでしょう。ぜひ、取り入れてみてはいかがでしょうか。

- 社内共有資料を保存する場所が決まっておらず、サーバー内や各PCに散在している
- 資料を探すのが大変…
- そもそもこの資料って最新のもの…？



社内文書の一元管理で業務効率アップ

社内で共有する文書を登録、保管できる機能です。

社内規定や契約書などの共有文書を一元的にグループウェアサーバー上で管理します。フォルダをツリー構造で設けて、カテゴリごとに文書、ファイルを格納・共有することができます。

フォルダやファイルに対してアクセス制限を設定可能ですので、特定の部署や社員のみ参照・編集させるなど、柔軟な設定ができるので、限られた社員だけで共有したい文書の管理も安心です。

文書の改版履歴を無制限に保存でき、いつでも過去の文書の内容を確認できます。また、登録ファイルの内容に変更があり、改版した際に過去のファイルを残した状態で登録し直すことができます。また、誤って別のファイルを登録してしまったときなど、前の状態にも戻したいときに、改版履歴からボタン一つで過去の文書を復旧することができます。

NI Collabo 360 : 月額328円/名(税込:360円)



クラウド管理で資料探しの手間を解消、業務をスムーズに

社内の共有資料をデジタル化し、クラウドで管理することの効果は計り知れません。まず、文書保存のルールが標準化されることで、どこに何があるかが一目瞭然になります。これにより、必要な資料を探す時間が大幅に短縮され、業務効率が飛躍的に向上します。

また、資料の改版履歴が残るため、最新の情報を簡単に確認できるだけでなく、過去のデータとの比較も容易になります。

ノウハウやマニュアル、提案書などをクラウド上で共有することで、チーム全体の生産性が向上します。外出先でもスマートフォンやタブレットから必要な資料にアクセスできるため、場所を選ばずに仕事が進められるのも大きなメリットです。

このように、資料のクラウド管理は、業務改善を目指す企業にとって欠かせないツールとなっています。導入を検討してみたいかどうか。

編集後記

DX通信2号をご覧くださいありがとうございます。今号では、ロードマップ作成ワークショップの様子や生成AIの利用レベルについて弊社独自視点からの解説、生成AIの社内活用事例や社内情報共有の実践事例をご紹介します。皆様業務課題を把握し、次のステップを考える手助けになればと思います。次号も、皆様にとって有益な情報をお届けできるよう努めてまいります。引き続きDX通信をよろしくお願いいたします。

社内業務のデジタル化・DX化にお悩みの方へ

デジタル化の必要性を感じつつも、導入方法から活用、費用対効果など、お悩みではありませんか？
渡敬伴走支援サービスは、お客様の社内業務のデジタル化、各種ツールをお客様自身が活用していただけるように支援を行います。

01 デジタル化経営伴走支援

全4回のワークショップを基本として、お客様の社内業務におけるデジタル化を進めていくための支援を行います。

02 kintone活用伴走支援

kintoneでのアプリの作成方法や設定方法、他アプリとの連携やプラグインの導入などの支援を行います。

03 社内情報ツール活用伴走支援

社内情報ツールをお客様が活用していただけるよう支援を行います。

04 業務自動化RPA伴走支援

RPA（定型業務自動化ロボット）を導入し、PCでの定型業務を自動化してお客様の生産性向上・業務効率化の支援を行います。

05 社内生成AI活用伴走支援

社内生成AI（社内のデータをAIに学習させ必要な情報をAIが自動で探し出すサービス）を活用してお客様の業務を改善する支援を行います。

06 Microsoft365活用伴走支援

Microsoft365の各ツール（Word, Excel, Teams, SharePointなど）をお客様が使いこなしていただけるように経験豊富な社員が支援を行います。

07 DX認定伴走支援 DX認定

国が定める法律に基づいた「DX認定」を取得できるよう、弊社の経験を活かした支援を行います。

DX学校 秋田渡敬校

生徒
募集

社内のIT人材を3ヶ月で育成します

DX学校はITに詳しくない中小企業に寄り添います。

オンライン学習システムで学んだ内容を講師との実践型授業で復習し、わからないままにせず進めることができます。担当講師が個人個人に寄り添ったサポートで学びを提供し、受講生の成長に並走します。

 DX学校 詳細はこちら ▶▶▶



2月のセミナー情報（お申込みはQRコードから）

DX学校秋田渡敬校 開校セミナー

- 🕒 2月13日(木)
14:00～15:00(受付13:30～)
- 📍 コワーキングスペースかま蔵



秋田県警コラボ サイバーセキュリティセミナー

- 🕒 2月20日(木)
13:30～(開場13:00～)
- 📍 株式会社渡敬 本社

